

福高はあなたの「みらい」を応援します！

文理科学科

「みらい学Ⅰ」研究交流会 開催！

自分たちの研究成果を“自分の言葉”で堂々と発表

1年生にとって初めての研究発表となる「みらい学Ⅰ 研究交流会」が5月14日（土）に開催されました。4月16日（土）、農学に関する特別講義で神戸大学大学院農学研究科教授の土佐幸雄先生が生徒たちに4つの課題を提示されました。この研究交流会において、その課題の中から自分たちが選んだ課題について、各班が図書館やコンピューター教室で研究活動に取り組んだ成果をポスターセッションの形式で発表しました。



ポスターセッションとは？

発表者が研究成果や調査報告をまとめたポスターを掲示し、記載内容に従って発表していきます。発表者が一方的に発表するだけでなく、聞いている人から直に質問を受けて回答するなかで、そのテーマについてお互いの理解を深めていくプレゼンテーションの手法で学会等では、現在、主流となっているようです。

生徒たちは、4月28日（木）から各班で研究活動に入り、短時間でしたが協力して立派なポスターを作成しました。交流会当日は、テーマを提示していただいた神戸大学の土佐幸雄先生をお招きし、多くの保護者が参観されるなか、8班が同時進行で、一人10分の発表をポスターの横に立って行いました。

生徒たちは最初は緊張して発表していたものの、参観者との議論を通して少しずつ、自信を持って自分の言葉で説明できるようになっていきました。

この経験を次の研究活動にいかし、よりレベルの高い発表へつながっていくことを期待しています。

研究交流会を通して学んだこと

- 研究したことを“伝える手法”
- 他の班の発表を聞くことによって、“他から学ぶ”姿勢
- 人を引きつけるポスター作成の工夫
- 発表に求められるコミュニケーション能力

今回の経験は、自分の将来の経験にきっと役立つと思う。「伝える」のがゴールではなく、「理解してもらう」のが本当のゴールだから、考える能力が身に付いた。

他にも、「こうすれば聴衆の心を掴める」と考えて話の構成を立ててみたり、より多くの人を寄せ付けるポスターを考えながら作ってみたり、いつもとは違って考えて作業ができたと思う。

舞鶴市立青葉中学校出身 常塚 健裕

私は今回の取組で、いろいろな事を学び、身につける事ができたと思います。最初は班員がバラバラで、何をテーマに調べるかも決まりませんでした。しかしテーマが決まると一人一人役割分担をし、効率よく研究を進める事が出来たと思います。細かく議論しながら進めたことで、ポスターの中身をより分かりやすく、おもしろく、濃いものにする事ができました。

福知山市立南陵中学校出身 谷村 理紗

中国研修旅行の充実に向けて 事前学習実施

文理科学科では、日本の「みらい」社会の創造と発展に大きく寄与することができる人材（リーダー）や国際社会に目を向け、国際感覚に優れた生徒の育成を目指し、海外研修旅行を実施しています。

悠久の歴史・文化に触れるとともに、コミュニケーション能力を高めるため、現地の高校と交流会も実施します。

今年度は中国（北京）、来年度はマレーシア・シンガポール訪問を通して、文化の共通点や独自性を学び、科学的な考察力を育み、課題研究の集大成へとつなげます。

今年度の海外研修旅行は、6月6日（月）から10日（金）に実施されます。目的地は中華人民共和国の北京です。中国研修旅行を有意義なものとするために様々な事前学習を実施しました。

中国歴史講座

今回の中国研修旅行で訪問する「北京」の歴史について学習しました。本校地歴公民科の足立教諭が今回訪問する世界文化遺産（万里の長城、天安門広場、故宮博物院、明の十三陵、頤和園、天壇公園）を紹介し、生徒たちが班毎に分担して歴史や特徴について調べました。



中国語講座

現地でのコミュニケーション能力を高めるために、福知山市日中友好協会の皆様を講師に迎え、自分の名前や日常の会話が中国語で話せるよう指導を受けました。生徒の上達ぶりには目を見張るものがありました。

今日は何より、中国語で自分の名前が言えるようになったことがよかったです。講師の方々も優しく、楽しい講義でした。最後の質問コーナーでは、中国の文化や日本の違いも知ることができて楽しかったです。

綾部市立綾部中学校出身 中 良介



個性的な講師の方々の分かりやすい中国語講座のおかげで、中国語が話せて楽しかったです。同じ漢字を使うのにも関わらず、異なる発音や読みに初めは戸惑いましたが、中国語の面白みを知ることができたので良かったです。

綾部市立綾部中学校出身 高本 夏実



「日本人は外国へ旅行に行く際、その国のことを学ばずに旅行に行くが、外国人は外国のことを学んで旅行する」と聞いたことがある。しかし今回の研修旅行では、中国について学んで旅行に行けるのでとても嬉しい。今回の講座で学んだことを十分に生かしたい。

福知山市立六人部中学校出身 坂口 知輝

文理科学科1年生より 中学生の皆さんに熱いメッセージを

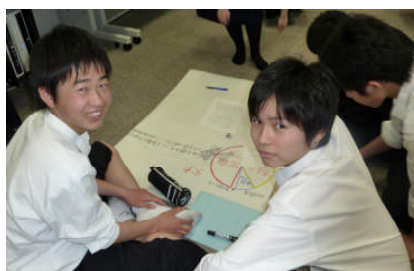
1年生が福知山高校文理科学科に入学して早1カ月が経過しました。福知山高校での学校生活、文理科学科での学習環境、みらい学の魅力など、今年入学した皆さんの先輩たちが、中学生の皆さんに熱いメッセージを送ります。中学生の皆さんもぜひ福知山高校文理科学科入学目指して頑張ってください！



私は文理科学科に合格し、入学しました。文理科学科といえば、ハイレベルな学習ばかりで周りの人もレベルの高い人ばかりというイメージがあったので、本当にこのクラスでやっていけるのかとても不安でした。きっとクラスの雰囲気もとても緊張感で溢れているんだろうなと思い込んでいました。しかし、実際は、みんなとても明るくて、自由で、とてもおのびのびしたクラスだったので安心しました。とても居心地の良いクラスです。しかし授業中は一変します。休み時間、騒がしかったのが急に静かになります。私語は全くありません。でも、それもまた居心地の悪いものではなく、クラス一人一人の授業に対する真剣さからきているものなので、いるだけで集中力が高まります。そして、その静けさもピリッとしたものではなく、和やかなもので、私は最高の学習の場だと思っています。

「文理は難しいから…」と思っている人も多いと思いますが、レベルが高いからこそ互いに高め合えるクラスです。ぜひチャレンジしてみてください！

福知山市立日新中学校出身 大槻 遥佳



高校生活は、中学で過ごしてきた生活とはまったく違いました。授業は、必ず予習しなければならないし、復習も大事にしないと授業についていけなくなります。また自分のことは自分でする習慣を身につけなければいけません。そして日常、何気なく使っている教科書も無料ではないので、持ち物は大切に扱い管理する習慣をつけることも必要だと思っています。

僕は福知山高校に入学してよかったと思っています。「文武両道」を掲げている学校なので、部活動も勉強も真剣に行えます。また校風もよく、とても素晴らしい先輩たちがたくさん居て、目標にできるので頑張れます。先生もとても良い指導をしてくださっているので、是非福知山高校を志望校にしてみませんか？

福知山市立六人部中学校出身 丸市 雄太

